

古地図の魅力 —日本と近江と村々の姿—

展示解説・展示一覧

会期：平成27年4月18日（土）～6月7日（日）

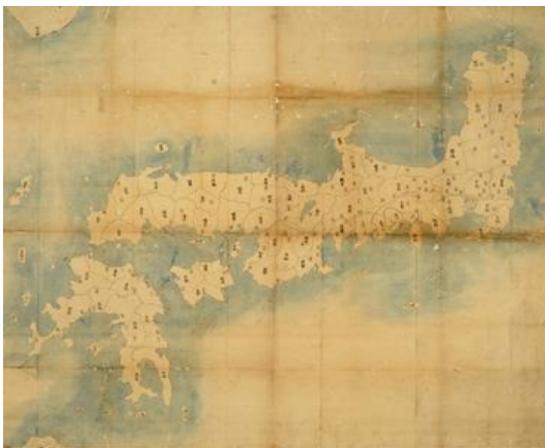
古地図にはその時代の歴史的・地理的な情報が満ちていて、眺めるだけで当時の人々の「思い」や「願い」を感じることができます。古来、人々は多種多様な地図を作ってきました。その地図の背景をよむことで「地図の魅力」がより感じられます。

今回の春季特別展では、「日本の姿」「近江の姿」「江戸期の村の姿」「明治初期における村の組替」と4つのテーマに分け、古地図とその背景にある資料も展示し「古地図の魅力」を紹介します。

一. 日本の姿

1 シャトラン：東アジア図 1718年

フランスの地理学者シャトラン（1684～1743）は、1705年から20年にかけて『歴史地図帳』全7巻をオランダのアムステルダムで出版した。この時期はまだ北海道以北の調査が十分でなかったため、北海道とサハリン（樺太）を合わせて大陸と地続きに描かれている。



日本国古図 江戸時代

2 日本国古図 江戸時代

本州、四国、九州と琉球及び朝鮮半島の一部を描き、国境と国名、禁裏や各城郭名が記載されている。作成年代は不明であるが、寛永の日本図の影響を受けていると考えられる。

二. 近江の姿

3 近江国絵図 元禄14年（1701）

江戸幕府は慶長・正保・元禄・天保年間に国絵図を作った。この地図は元禄14年に幕府に提出された近江国絵図を四分の一に縮写したものである。

4 琵琶湖近傍大絵図 大正2年（1913）写

伊能忠敬による琵琶湖沿岸の測量は、文化2年（1805）8月から10月に行われ、文化4年に「琵琶湖図」（国宝）が作成された。千葉県佐原の伊能家に伝わり現在は伊能忠敬記念館が所蔵する。「琵琶湖近傍大絵図」は、大正2年に佐原中学校の海塩錦衛校長を通じ、里内文庫が模写を行った。

5 測量機 19C

方位や高度角を計る望遠鏡と羅針盤を組み合わせた測量機械「中方儀」。「測量機」と書かれた蓋の裏に、明治25年に栗太郡治田村の住人が購入したと墨書されている。江戸後期～明治初期に作られたと考えられるが、詳細は不明である。

6 滋賀県細見全図 明治10年（1877）

7 新撰滋賀県管内全図 明治13年

明治9年の府県統廃合で、敦賀県（現在の福井県とほぼ同じ範囲）が廃止され、若狭国

(三方郡・遠敷郡・大飯郡)と越前国敦賀郡が滋賀県へ、残りの地域は石川県へと移設された。これらの地図の上部には若越4郡が滋賀県として描かれている。明治14年に福井県が成立して若越4郡が分離されるまでの間、滋賀県は若狭湾に面していた。



撰滋賀県管内全図 明治13年

8 若狭・越前4郡合併の達

明治9年(1876)8月21日

敦賀県を廃し若狭・越前4郡と合併するよう、右大臣岩倉具視から滋賀県に達した文書。

9 若狭・越前4郡離脱に対する建議書

明治14年(1881)2月13日

明治14年、福井県の設置にともない若越4郡は滋賀県から福井県へ移管されることが決定した。これに対し、当時の滋賀県令籠手田安定は太政大臣三条実美と内務卿松方正義にあてて、若越4郡は地理・歴史・人情の面で滋賀県に近いことなど7カ条にわたる主張を展開し、滋賀県からの分離に反対する建議書を提出した。

10 江州之図 寛文2年(1662)

貼り紙が4枚あるが、朽木のあたりに貼っ

てある1枚には地震の状況が記載されている。この地震は寛文2年5月1日に湖西の花折断層北部を震源地とするマグニチュード7.6と推定される「寛文近江・若狭地震」と考えられる。

三. 江戸期の村の姿

11 長野中村見取^{あら}絵図

文政12年(1829)

2枚に分かれているが1組の地図として作られた。他村の人が請負耕作している「他村出作」が黄色に彩色され、非常に目立っている。また、「御代官様」と書かれており、彦根藩に提出するため作成された地図と考えられる。文化・文政の頃、長野中村では耕作地が多いのに耕作者が少ない浮田(不耕作地)問題に悩まされていた。これらの労働不足を解決するため、出屋敷をつくって村民を募ったり、隣村からの出作を頼んだりした。これらを表しているのがこの地図である。

12 彦根奉行所への裁許願出

文政9年(1826)

文政9年2月、長野中村が領内の浮田耕作のため、身上柄の者(裕福な者)11人に分配し引請けさせる相談を行うが調わず、彦根奉行所へ裁許を願い出た文書。

13 宗旨送一札 文政13年(1830)

文政13年9月に長野中村軍蔵方へ美濃国(岐阜県)中島郡小藪村から栄蔵一家が養子手続きをして移り住んだ証文(愛知川の宝満寺への寺送り状)である。

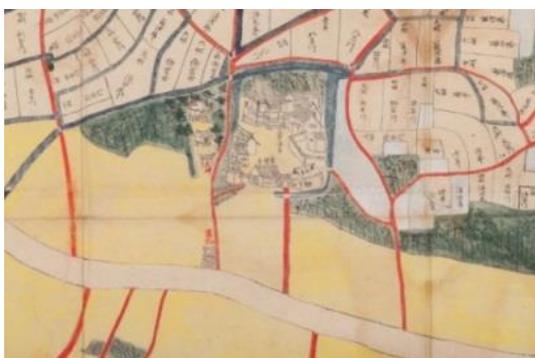
14 沓掛村水路の図 安永5年(1776)

上部(東側)には井元が描かれていて、中ほどには井元から中山道までの水路(長湯)が描かれる。水路は北に折れすぐ西に折れるが、ここからが沓掛領である。「沓掛村地券取調総

絵図」からもわかるように、沓掛領は東にハンマーのような形で突き出ている。

1 5 愛知川村絵図 嘉永2年(1849)写

江戸時代、愛知川は中山道65番目の宿場町として発展した。中央部にみえる中山道は五街道のひとつで、古代の東山道を踏襲した道である。地図には、主に田地の様子が描かれていて、一枚ごとの面積と耕作者と思われる名前が入っている。屋舗(黄色)や畑地(薄青色)についての情報はほとんどない。



愛知川村絵図(部分) 嘉永2年

四. 明治初期における村の組替

明治政府は明治五年(一八七二)に地券の発行を指示し、六年には地租改正法を公布した。それにとまなう調査の過程で、村と村の境界が不明確なところなどが出てきた。そのため、村の合併や組替などを県に願い出る村があった。

1 6 中宿村地券取調総絵図(組替前)

明治6年(1873)

1 7 中宿村地券取調総絵図(加筆)

明治6年(1873) 愛荘町蔵

2枚の「地券取調総絵図」を比較すると、北西部の「字横屋田」が大きく変化している。大門村の一部が中宿村に組替られた。

1 8 交錯地組替御願書(大門村・中宿村)

明治7年(1874)2月10日

大門村と中宿村の交錯地組替の願書が滋賀

県令松田道之に出された。

1 9 地所組替分界図 中宿村と長野村

明治11年(1878)

組替部分について県に提出した図。中程の白い部分が組替地。

2 0 蚊野外村地券取調総絵図

明治6年(1873)

蚊野外村の絵図で注目されるのは、宇曾川より南部が現在の領域より大幅に広いことである。「香之庄村郷塚」「小八木村郷塚」と書かれたあたりから東部「愛知野」「六町林」が現在は小八木領である。

参考3 小八木村地券取調総絵図 明治6年

2 1 小八木村地租改正番号等級縮図

明治初期

参考3では、2村の境界は宇曾川でなく、もっと南になっている。21では宇曾川が境界になっている。

2 2 蚊野外村より小八木村へ組替

明治初期

蚊野外村の一部が小八木村に組替られたことに関する文書。

ギャラリートーク

開催日 5月17日(日) 13:30~

演題 古地図の魅力—背景をよむ—

講師 門脇正人(当館顧問)

場所 当館企画展示室

平成27年度春季特別展

古地図の魅力—日本と近江と村々の姿—

展示解説・展示一覧

編集・発行: 愛荘町立歴史文化博物館

電話: 0749(37)4500

発行日: 平成27年(2015)4月18日

展示一覧

展示番号	展示作品名	時代	法量(cm)	所蔵
日本の姿				
1	シャトラン:東アジア図	1718年	49.0×43.5	大谷大学図書館
2	日本国古図	江戸時代	133.4×158.0	大谷大学博物館
近江の姿				
○ 3	近江国絵図(四分の一縮写)	元禄14年	241.5×175.3	栗東歴史民俗博物館(里内文庫)
○ 4	琵琶湖近傍大絵図(伊能図写)	大正2年写	120.5×104.2	栗東歴史民俗博物館(里内文庫)
● 参考	伊能忠敬像	文政4年	90.4×31.4	伊能忠敬記念館
5	測量機	明治25年購入	36.5×14.5	栗東歴史民俗博物館
○ 6	滋賀県細見全図	明治10年	80.0×79.6	栗東歴史民俗博物館(里内文庫)
7	新撰滋賀県管内全図	明治13年	74.0×84.0	個人
○ 8	若越・越前4郡合併の達	明治9年	25.7×17.5	滋賀県
○ 9	若狭・越前4郡離脱に対する建議書	明治14年	26.7×19.0	滋賀県
10	江州之図	寛文2年	149.0×239.0	個人
江戸期の村の姿				
11	長野中村見取庵絵図	文政12年	148×216 127×225	長野西区
12	彦根奉行所への裁許願出	文政9年	28.3×19.6	長野西区
13	宗旨送一札	文政13年	28.4×40.3	長野西区
14	沓掛村水路の図	安永5年	163.0×211.0	個人
参考	沓掛村地券取調総絵図	明治6年	203.0×110.8	愛荘町
15	愛知川村絵図	嘉永2年写	125.0×136.0	当館
明治初期における村の組替				
16	中宿村地券取調総絵図(組替前)	明治6年	156.9×119.5	愛荘町
17	中宿村地券取調総絵図(加筆)	明治6年	155.0×117.0	愛荘町
○ 18	交錯地組替御願書(大門村・中宿村)	明治7年	24.6×16.2	滋賀県
○ 19	地所組替分界図 中宿村と長野村	明治11年	27.8×38.9	滋賀県
20	蚊野外村地券取調総絵図	明治6年	338.0×117.0	愛荘町
参考	小八木村地券取調総絵図	明治6年	289.0×180.5	東近江市教育委員会
21	小八木村地租改正番号等級縮図	明治初期	113.8×77.0	東近江市教育委員会
○ 22	蚊野外村より小八木村へ組替	明治初期	23.8×17.0	滋賀県
○ 参考	地所組替分界図 蚊野外村と小八木村	明治11年	27.8×38.9	滋賀県

参考 写真パネル

● 国宝 ○ 滋賀県指定文化財 愛荘町指定文化財